

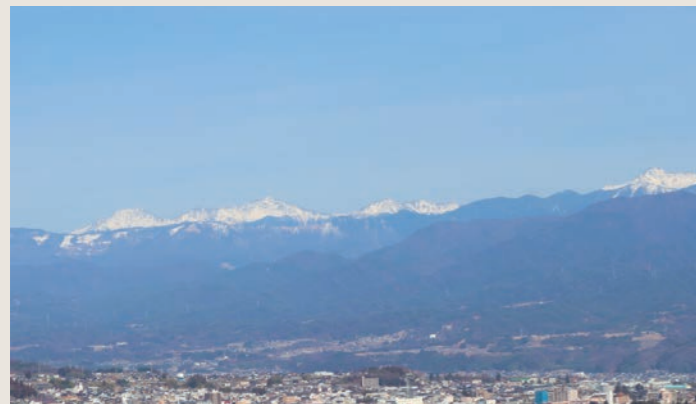
— 未来に向かって誇れる仕事をしよう —
技建開発 株式会社



所在地：〒395-0151 長野県飯田市北方1313番地2
 TEL：0265-52-0511
 FAX：0265-53-3130
 URL：https://www.gkc.co.jp/
 社員数：230名
 創立：1984年9月5日
 代表者：代表取締役 武井 清彦



品質証明シール Ver.1、Ver.2 (※1)



社屋から南アルプスを望む



本社社屋

会社概要

当社は1984年に創業し、2023年で39年目を迎えます。長野県南部に位置し、標高3,000m級の南アルプスと中央アルプスに囲まれ天竜川が流れる自然豊かな南信州の飯田市に本社をおきます。当社は発注者支援業務、測量・設計業務、インフラ構造物等の点検・診断・解析業務を主軸に国土交通省、農林水産省、長野県等地方自治体、高速道路会社、鉄道会社等から業務を受注し社会基盤整備の一端を担っています。

経営理念

「礼儀正しく、明るく、元気で前向きなわが社は本物の一流技術屋集団として、社員と家族とお客様と、共に成長、発展し、共に幸せになり、共に地域に貢献します」との理念のもと挑戦を続けています。

技術開発

【NETIS登録技術 品質証明シール】

建設工事に用いられるコンクリートの品質を証明するため「品質証明シール」を自社開発しNETIS

(CB-130013-VE)に登録されました。当該技術はコンクリート供試体に貼着し、コンクリート供試体の取り違いや誤混入を防止する品質管理資料として北海道から沖縄まで全国の工事でご使用いただいています。(写真※1)

【国立大学大学院との産学共同技術開発】

国立大学大学院工学研究科との共同研究により「電磁波レーダを用いたコンクリート構造物内部のひび割れ領域および鉄筋腐食領域の可視化に関する実験的研究」に2014年から取り組み、2023年度中の実用化に向けて最終調整を行っています。

新技術の活用

【赤外線サーモグラフィ法 J-システム導入】

J-システムはコンクリート構造物の点検において、高性能赤外線カメラを用い、浮き・剥離・内部欠陥などの変状箇所を100%検出する赤外線調査システムです。

国土交通省『点検支援技術 性能カタログ(案)』に掲載され、主に橋梁の第三者被害予防措置のスクリーニング技術として積極的に採用されています。



外部講師を招いての技術講演会(※2)



トンネル点検



発注者支援業務



中央自動車道座光寺スマートIC設計



登録有形文化財【久米路橋】補修設計



重要文化財【坂戸橋】橋梁点検



小型多機能車両「コスモス」と女性技術者(※3)



企業は人なり

【人材育成】

当社では技術力の向上と人間力の向上を掲げ、年に数回研修会を実施しています。昨年度は国立大学大学院から講師を招き「AIが拓くインフラ維持管理の未来」の演題で技術講演会を行いました。また毎年恒例の人を育てる研修として、人とホスピタリティ研究所代表、ザ・リッツ・カールトン・ホテル前日本支社長の高野登様を講師に迎えて「ホスピタリティ」を学び、技術力向上のみならず人間力向上にも力を注いでいます。(写真※2)

【技術者の育成】

技術士資格取得のため技術士養成講座を開講し独自教育を行っています。2018年から5年連続で合格者を輩出し、資格保有者は延べ45名となりました。専攻部門ごとの傾向と対策や模擬面接など、合格のためのノウハウと技術者に寄り添った講義が確実に実を結んでいます。

【女性の活躍と職場環境の整備】

女性技術者の採用も積極的に行っています。女性技

術者が現場に赴く際の心配や不安を解消するため、女性専用の小型多機能車両「コスモス」を女性目線の設計とデザインで独自に開発し導入しました。トイレの他パウダースペースを設け行動の制限なく女性が活躍することが出来ます。技術者に占める女性の割合も年々増加しています。(写真※3)

【外国人技術者の雇用】

国内の技術者不足に対応するため外国人技術者を正社員として採用しています。土木技術という共通のテーマに対し知識と経験を重視し、日本人と同一の条件で採用することにより現在では10名の技術者が誇りをもって業務に当たっています。

最後に

飯田市はリニア中央新幹線長野県駅の建設工事が始まっており、数年後には首都圏と中京圏とが1時間程度で結ばれます。安全・安心で災害に強い魅力ある地域づくりの一翼を担い、必要とされる企業として成長発展していけるよう社員一丸となって邁進してまいります。

(文：営業本部本部長 齋藤 勝則)